

The Japanese Association for Metastasis Research

NEWSLETTER Vol. 41

- 第22回 学術集会日程のご案内
寄稿 北台 靖彦 新理事
(広島大学 消化器・代謝内科)
松浦 成昭 新理事
(大阪大学 保健学専攻)
- 第23回 学術集会のご案内
第18回 研究奨励賞募集案内
会則 / 役員選任規程 / 役員名簿 / 変更届



JAMR

日本がん転移学会

URL : <http://jamr.umin.ac.jp>

第22回日本がん転移学会学術集会(総会)の案内

会 期：平成25年(2013年)7月11日(木)、12日(金)

会 場：ホテルブエナビスタ (松本市本庄1-2-1)

テーマ：がんの不均一性 -理解と対応-

- ・特別企画 山極勝三郎生誕150周年記念シンポジウム
- ・教育講演 「がん研究の新しい数学ツール
～ホモロジー検査と数理細胞生物学」
鈴木 貴(大阪大学 基礎工学研究科)
- ・Young Investigator's Session in English
- ・シンポジウム ・ワークショップ ・ポスター発表

◆会議予定◆

理 事 会 7月10日(水) 17:00～18:00

評議員会 7月11日(木) 12:00～13:00

総 会 7月11日(木) 13:00～13:20

総会事務局

第22回日本がん転移学会学術集会・総会 会長 谷口 俊一郎
信州大学大学院医学系研究科 疾患予防医科学系専攻 分子腫瘍学講座
〒390-8621 松本市旭3-1-1 TEL:0263-37-2679 FAX:0263-37-2724

【総会事務局】

E-mail: stangch@shinshu-u.ac.jp

ホームページ <http://jamr2013.umin.jp/>

第22回日本がん転移学会学術集会 日程表（予定）

7月11日（木）

	A会場	B会場	ポスター会場
	3階グランデ	2階メディアール	3階グランデ
8:30	開会の挨拶		
9:00	シンポジウム1 がんの不均一性／基礎 座長：佐谷秀行（慶応大） 伊藤和幸（大阪成人病セ） がん幹細胞 ジェネティックス エピジェネティックス 病理・病態、細胞学的視点から		
11:00	WS1 がん形質の不安定性 －遺伝子解析 エピジェネティックス－	WS2 がん形質の不安定性 －EMT・がん幹細胞・病理形態－	
12:00	ランチョンセミナー エーザイ株式会社	ランチョンセミナーまたは評議員会 (場所未定)	
13:00	総会		
13:30	会長講演 座長：太田哲生（金沢大）		
14:00	シンポジウム2 がんの不均一性の対応 －標的を微小環境に求める－ 座長：板野直樹（京都産業大） 肥田重明（信州大） 低酸素 血管 炎症・免疫、細胞間相互作用 間質細胞 など		18:00～18:50 Presentation and discussion ①遺伝子解析 ②エピジェネティックス ③EMT・がん幹細胞 ④炎症・腫瘍免疫 ⑤間質細胞・血管・低酸素 ⑥接着・骨格・運動 ⑦分解酵素・代謝・シグナル ⑧病理・病態 ⑨診断・イメージング・CTC ⑩治療・細胞死・DDS ⑪International session
16:00	WS3 微小環境・相互作用 －炎症・腫瘍免疫－	WS4 微小環境・相互作用 －間質細胞・血管・低酸素－	
17:00	WS5 がん細胞の転移形質 －接着・細胞運動・骨格－	WS6 がん細胞の転移形質 －分解酵素・代謝・シグナル－	
19:00		懇親会	

7月12日(金)

	A会場	B会場
	3階グランデ	2階メディアール
8:30	Young Investigator's Session in English 座長：早川芳弘(富山医薬大) 福島 剛(宮崎大) ・1名若手外国研究者+奨励賞受賞者	
9:30	WS7 がん転移診断 病理・病態・診断・イメージング・CTC	WS7 がん転移治療 治療・細胞死・DOS など
10:30	シンポジウム3 先端のがん治療－問題点とその改善 座長：中島元夫(SBIファーマ) 矢守隆(PMDA)	
12:30	ランチョンセミナー SBIファーマ(株)	ランチョンセミナー未定
13:30	教育講演 座長 越川直彦(東大) 数理生物学的アプローチ -不均一性の理解と対応-(仮) 講師 鈴木 貴(阪大)	
14:30	【市民公開講座】 「山極勝三郎生誕150周年記念シンポジウム」 座長：安井 弥(広大) 菅野祐幸(信大) 樋野興夫(順天大) 中山 淳(信大) 宮園浩平(東大)	
16:30	閉会の辞	

第23回日本がん転移学会学術集会・総会の案内

会 期 : 平成26年(2014年)7月10日(木)、11日(金)

会 場 : 金沢市文化ホール

会 長 : 太田 哲生(金沢大学医学系研究科 がん局所制御学分野)

寄稿1：リサーチマインドを持つ臨床医の育成

北台 靖彦 新理事（広島大学消化器・代謝内科）

平成24年6月より本学会の理事を務めさせていただいています広島大学の北台と申します。本学会はがん転移の克服を目的として、臨床、基礎、創薬など多方面から研究者が集い、研究発表や討論をおこなうユニークな学会です。各方面の研究者は視点や興味の対象などが異なることより、発表内容がバラエティーに富んでおり、毎回、楽しく発表を聞かせていただいています。私など臨床医にとっては、基礎研究者の発表を拝聴し、ご意見をいただけることは非常にありがたく、毎回学会で大いに刺激を受けることができます。しかし、ここに来て、基礎研究に興味を示す臨床医が少なくなっているような気がします。トランスレーショナル研究を行う観点からも、リサーチマインドをもつ臨床医が必要と考えています。

私は医学部生や医学系大学院生の教務に15年間以上関わっていますが、最近、基礎研究や海外留学に興味を持つ学生や若い医師が大幅に減少していることを実感しています。特に研修医に関しては、大学病院よりも都会の大病院での研修を希望するものが多く、その結果、大学院生の減少、基礎研究室離れなどの傾向が顕著となりました。若い医師からは、研究をして学位を取得するよりも、早々と専門医の資格を取り安定した職と収入を得たい、あるいは臨床医が基礎的研究をすることの必要性を感じないという意見を聞きます。これは今日の医学生の教育システムにも影響を受けているのかもしれませんが。近年、医学生が習得すべき知識量は私が学生のころに比べ倍近くになり、授業はコアカリキュラムに沿った国試対策も加味して詰め込み式に行なわないといけません。講義内容、教え方、ハンドアウト充実度に関しては、アンケートを通して学生が教員を評価する時代です。よって、授業は教科書的な内容となり、高校や予備校と同様な受身的な授業になりがちです。

しかし、こういった時代だからこそ研究に興味を持たせる授業や実習をしないとはいけません。思い返せば私が受けた昔の講義は、系統だった内容ではなく雑談のようなものでありました。スライドや黒板も全く使わない先生もいれば、教科書もハンドアウトもすべてドイツ語を使用される先生、教科書には載っていないことばかりを教えてくれる先生など様々でした。教員（当時は教官と言っていました）が自分の得意な分野に関して、研究のこと、留学のことなどを熱く語っていただきました。それぞれの講義に特徴があり面白かったことを覚えています。卒試と国試は内容も形式も全く異なり、「国試の勉強なんかは、問題集を買って自分たちでするのが当然！」という時代でした。話が横道にそれる雑談的な講義から基礎研究や海外留学に強いあこがれを持っていました。

私は幸い大学院時代の恩師である田原榮一名誉教授（広島大学第一病理）のご高配により、テキサス大学MDアンダーソン癌センターのFidler教授のもとで2年間、転移研究を勉強する機会を得ることができました。Fidler先生は本学会の会員の先生方のほとんどがご存知と思いますが、転移研究では、「微小環境」「heterogeneity」「転移モデル」などのキーワードで示される転移研究の草分け的存在です。おかげさまで転移研究に関して多くのことを教えていただき今日まで研究を続けることができました。ちなみに、留学した最初の日にFidler先生よりいただいた言葉は“Do not work hard, do smart!”です。4時間デスクワーク（文献を読みアイデアを出し、実験計画を立て、論文を書く）、4時間実験（手を動かす）すれば十分と言われ、なんと余裕のある生活だろうと思ったことを覚えています。留学最終日のお言葉は“Your vacation is over”でした。私が日本での過酷な生

活にもどることを憂いておられたのでしょうか。また、仕事面のみならず、日常生活からも、生活環境や考え方の違いなどを知ることができ視野を広げることができました。しかし、アメリカ留学を通して得られたもっと貴重なことは、日本各地の大学や研究所からMD アンダーソンにいられた多くの先生方との交流です。写真は昨年広島で開催された第21回本学会学術集会で撮影されたものですが、Fidler 先生（特別講演演者）、Kripke 先生ご夫妻とその日本人の弟子たち（通称The Fidler's Family、日本人約30名）の写真です。歴代会長である曾根三郎先生や済木育夫先生、理事の矢野聖二先生をはじめとして、本学会でご活躍されている先生が多数いらっしゃいます。このような留学で得られた貴重な経験や基礎的研究の面白さを講義中に話しますと、学生はうたたねをやめて目を輝かせて話を聞いてくれます。中には講義の後に質問してくる学生もいます。

広島大学では昨年度より医学科の4年生次に約4か月間どっぷりと基礎研究を行う実習をはじめました。海外で研究した学生もいます。実習最終日に全員が研究成果をポスター発表しましたが成果は素晴らしいものでした。指導された教員の労力はさぞかし大変だったであろうとお察ししますが、学生たちは、新しいことを見つけることや海外留學生活の楽しさ、研究発表後の充実感などを実感したようです。それを反映して本年度は海外希望の学生がかなり増加し、受け入れ先研究施設を探しています。このような基礎研究や海外留學を経験できる医学教育実習は将来、リサーチマインドを持つ臨床医や基礎医学研究者の育成に有用なカリキュラムです。私は大学教員としての立場から、これからも研究の面白さ、留學の楽しさを一人でも多くの医学生や若い臨床医に伝えていきたいと思っています。



[写真説明] The Fidler's Family.
第21回本学会学術集會にて撮影
(広島オリエンタルホテル/安井 弥会長)

寄稿2：病理学的重要性

松浦 成昭（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座）

「まほうびょう」？

皆さん、「まほうびょう」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「魔法の病気」ではありません。これは「麻酔科」「放射線科」「病理科」の頭文字を取ったもので、研修医が将来、進む分野として、最も人気がないと言われている3つの科です。この3つには共通点があり、患者さんとの触れないが少ない～ほとんどなく、主治医として診療にあたることはありません。一方で、病院全体からみるとこの3つは中央診療部門と位置づけられ、診療が円滑に行くために必要な分野であり、いわば「縁の下の力持ち」的な要素がありま

す。麻酔科や放射線科は本当に人気がないのかどうかは議論のある所と思いますが、少なくとも病理を志す医師は多くはないと考えられます。病理の仕事は患者さんから見えることのない、正に「縁の下の力持ち」であり、地味で評価されることのあまりない一方で、病気の確定診断に必須なので、責任が重く、仕事内容と評価のアンバランスが若い医師には人気がない原因と考えられます。

病理は時代遅れの学問か？

病理と言うと、「顕微鏡を用いて組織・細胞を観察し、形態学な異常により病気を診断する手法」と考えられる方が多いと思います。確かにその通りなのですが、顕微鏡によるミクロの観察だけでなく、肉眼的なマクロの観察も含めて、主として形態学を用いた診断体系ということになります。病理の基本となる形の変化、異常は数値化が難しく、ある意味で主観的な診断になることから、「病理はアナログな時代遅れの方法だ」と非難されることがしばしばあります。確かに、細胞を見て、がんを病理診断するのは、人の顔を見て「お前は悪い顔をしているから悪性だ」「君はきれいな顔をしているから良性ね」というような所があります。当然ながら「おとなしそうな顔をして悪い奴」も世の中にはいるので、それをちゃんと見分けられるのかという疑問が寄せられます。また、どこかから悪性と決めても必ず境目というのができますので、病理医によって良悪性の基準が微妙に異なり、「いい加減な学問だ」というそしりも時として寄せられます。

形だけではなく振舞いも含めるのが病理診断

しかし、皆さんも暴力団員と接すると、入れ墨があるとかという見た目の「形」に加えて、口のきき方から「この人はおかしいな」と感じるのが一般的だと思います。さらに他人の家に勝手に押し入ったり、人を恫喝したり、殴ったりする姿をみると「やはりこの人は悪人」だと判断します。病理学の形態というのは細胞の振舞いや周囲とのやりとりも含めたものですので、単に写真だけ見て判断するのは違います。そもそも、医療は「しこりがある」「赤く腫れている」と形の変化を認識するところから始まりますし、画像診断も形態診断であり、形をベースにした診断は広く行われています。ただ、形からだけではわからない情報も必ずありますから、性質を加味した形態診断が病理には課題です。そもそも「瘡（やまい）の理（ことわり）を学ぶ」のが病理学であり、かつてのVirchowの「細胞の形の変化が病の本質である」という時代のコンセプトから形態に基づいた診断が病理診断とされてきたわけですが、100年以上時代が経過した現在、形態+ α も含めた新しい病理診断が必要です。

がんの研究者も病理学を学びましょう

形態学を基礎に置く病理学は勉強しにくいので、がんの研究者からも敬遠されています。しかし、Virchowではありませんが、がんの本質は遺伝子異常に基づいた細胞の変化にありますので、がん研究者は顕微鏡観察をもっとしてもらいたいと思います。私たちの体の中は、何か異変が起きると、必ずそれに対する生体のレスポンスがあり、それも含めて病変が形成されます。がんの組織は実質（がん細胞）と間質（生体側の細胞・基質）から成り立っており、その相互関係ががんの多様性を生み出しています。がんの組織は実に色々な細胞から形成されており、非常に多くの情報が含まれています。一度、がんの組織を顕微鏡で見て、同じ画面を10分くらい、ずっと見続けてみてください。上から順番にこの細胞は何を考えてそこにいるのか、次にどうしようとしているか・・・と順番に追っていくと色々なことが見えてきます。初めはどれががん細胞かも難しいかもしれません。しかし、多く見ているとだんだんとわかってきます。がんを研究しようという若い方は、是非、顕微鏡を見て、がんの「現場」をしっかりとらえて頂きたいと思います。現場がわかった上で、それぞれのアイデアで研究を進めると新しいことが見えてくると思います。

第18回日本がん転移学会研究奨励賞募集

<http://jamr.umin.ac.jp/JAMRSite/encourage.html>

本賞はすぐれた研究業績を発表した本学会会員若干名に対して、
選考の上、本学会総会において授与します。

【募集期間】

平成25年4月1日～9月30日

- ・受賞候補業績の範囲は、原則として本学会において発表された業績として、本学会会員により応募されたものとする。
- ・受賞候補者は、将来の発展が期待される若手研究者（応募年度の4月1日現在40歳を越えないこと）で過去に本学会で発表した実績がある者とする。
- ・研究奨励賞受賞者数は単年度2名程度を原則とする。
- ・研究奨励賞の賞金（奨励研究費）は1件20万円とする。

募集要項・申請書等については、下記事務局までメール・Faxでお問い合わせ下さい

■事務局■ E-mail : office-jamr@umin.ac.jp Tel / Fax 06-6971-7951

研究奨励賞受賞者一覧

	受賞者	所属
第1回	藤田 直也	東京大学分子細胞生物学研究所
	磯合 敦	旭硝子株式会社中央研究所
第2回	吉村 雅史	大阪大学医学部第二内科
	矢野 聖二	徳島大学医学部第三内科
第3回	伊藤 和幸	大阪府立成人病センター研究所
第4回	越川 直彦	スクリプス研究所/横浜市立大学
第5回	吉治 仁志	奈良県立医科大学第三内科
	軒原 浩	国立がんセンター中央病院内科
第6回	山本 博幸	札幌医科大学医学部内科学第一講座
	伊藤 彰彦	大阪大学大学院医学系研究科病理病態学
第7回	李 千萬	大阪大学大学院医学系研究科臓器制御外科
	板野 直樹	愛知医科大学分子医科学研究所
第8回	三森 功士	九州大学生体防衛医学研究所腫瘍外科
	隈元 謙介	福島県立医科大学第二外科
第9回	滝野 隆久	金沢大学がん研究所細胞機能統括
	粕 雄一朗	神戸大学大学院医学系研究科生体情報医学講座
第10回	菅原 一樹	大阪大学大学院医学系研究科
	川田 学	(財)微生物化学研究会微生物化学研究センター
第11回	加藤 幸成	産業技術総合研究所 糖鎖医工学研究センター
第12回	下田 将之	慶應義塾大学医学部病理学教室
	小泉 桂一	富山大学和漢医薬学総合研究所病態生化学
第13回	渡邊 リラ	第一三共株式会社
第14回	王 偉	金沢大学がん研究所腫瘍内科
	山本 真義	浜松医科大学第2外科
第15回	清水 史郎	慶応義塾大学 理工学部
第16回	早川 芳弘	東京大学大学院薬学系研究科 生体異物学教室
	福島 剛	宮崎大学医学部 病理学講座腫瘍・再生病態学分野

日本がん転移学会会則

第1章 会の名称

第1条 本会を「日本がん転移学会」“The Japanese Association for Metastasis Research”と称する。

第2章 目的および事業

第2条 本会は、がん転移による死亡率を減少せしめるべく、基礎、臨床、開発（薬剤、機器等）研究を通じて実質的討議を行い、がん転移研究の発展、診断・治療の進歩普及に貢献する事を目的とする。

第3条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 学術集会を少なくとも年に1回開催
- (2) がん転移に関する研究発表、情報交換、資料の収集、教育及び研修
- (3) 本分野に関して海外研究者との連携
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 本会の事務局は、大阪市東成区中道1丁目3番3号、大阪府立成人病センター内に置く。

第3章 会員

第5条 会員は、本会の趣旨に賛同し、評議員、顧問あるいは名誉会員の推薦を受け、理事会の承認を得て入会した個人ならびに法人（法人格のない団体を含む）とする。

第6条 会員である法人の取扱いは次による。

1. 法人に所属する個人はその法人の承認を得れば本会の事業に参加できる。
2. 前項により参加する個人からは年会費を徴収しない。
3. 会員である法人は登録者3名迄と会計事務担当者1名（兼任も可）を決め事務局に届出なければならない。

第7条 会員は評議員会において別に定める会費を納入しなければならない。

第8条 引きつづき2年以上会費を滞納したものは評議員会の議により、その資格を喪失する。

第9条 顧問は理事会にて推薦、評議員会にて承認を受ける。また、本会に対して特に功労のあった者は、名誉会員・功労会員として理事会にて推薦、評議員会にて承認を受ける。顧問・名誉会員・功労会員は本会の発展のために適切な助言をする。顧問・名誉会員・功労会員は会費を要しない。

第4章 役員および役員会

第10条 本会に会長1名、副会長1名、若干名の理事ならびに評議員、監事2名、事務局幹事1名を置く。

*事務局幹事は会長が任命し、会長及び理事会の事務を補佐する

第11条 会長は本会を統括し、理事会・評議員会では議長となる。副会長は、次期会長がこれを務め、会長を補佐し会長に事故のある場合はその職務を代行する。会長・副会長の任期は1年とする。会長は本会を統し、

第12条 理事は評議員の中から選出される。任期は3年とし、任期終了後1年間は再選されない。理事は会長を補佐し日常の会務について決定し、執行する。理事会の構成は、会長・副会長・理事および前会長とする。理事会は構成員の2/3以上の出席（但し委任状を提出した人は出席とみなす）により成立し、議決は出席者の過半数をもって決する。

第13条 評議員は会員の中から選出される。評議員の任期は3年とし、再任は妨げない。評議員会は会の運営に関する重要事項を審議決定する。評議員会は評議員の1/2以上の出席（但し委任状を提出した人は出席とみなす）をもって成立し、議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第14条 監事は評議員の中から選出される。監事の任期は1年とし、再任は妨げない。監事は本会の会計および会務を監査し、理事会・評議員会にて報告する。

第15条 次期会長・理事・評議員・監事の選出は日本がん転移学会役員選任規程に基づく。

第5章 総会および学術集会

第16条 総会は毎年1回学術集会の時期に会長が招集し、総会の議長となって次の議事を行う。

1. 会務の報告
2. 会長が必要と認める事項

総会の議事は出席者の過半数によって決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

第17条 会長が必要と認めたときは評議員会の議を経て、臨時総会を随時開催することができる。臨時総会の議案は定期総会に準ずるものとする。

第18条 学術集会は毎年1回会長が主宰し、研究発表、意見交換を行う。

第19条 本会会則第2章第3条の4の規定に基づき各種の委員会を設けることができる。委員会の設置、その構成及び運営方法は、理事会において討議し、評議委員会にて承認する。また会の目的を達成するための具体的、実質的討議を行うため、研究推進会議(班)を設置することができる。その構成及び運営方法は理事会において討議し、評議委員会にて承認する。研究推進活動の経過については、学術集会で報告する。

第6章 会計

第20条 本会の経費は会員が拠出する会費ならびに協賛金等をもってこれにあてる。

第21条 毎年度収支決算は会長が作成し、監事の監査を受け、評議委員会の承認を得て、毎年総会において報告する。

第22条 会計年度は毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。

第7章 会則の変更

第23条 本会会則の変更は理事会、評議委員会および総会において、各々出席構成員の2/3以上の承認を得なければならない。

付 則

1 本会則は平成12年7月1日よりこれを実施する。本会則は14年6月8日、平成18年9月3日一部改正した。

日本がん転移学会役員選任規程

第1章 役員を選任

第1条 会則第15条により次期会長(副会長)・理事・評議員および監事は本規定に基づき選出される。なお、役員は65歳をもって定年とする。

第2章 次期会長(副会長)の選出方法

第2条 次期会長の選出に際しては、評議員全員に告示する。候補者は所定の様式で抱負を述べた資料を理事会に提出し、理事会はこれを討議し候補者1名を推薦する。

第3条 次期会長の選出は評議員会で行う。

第3章 理事の定数と選出方法

第4条 理事の定数は個人評議員より約6名(原則として基礎3名、臨床3名)、法人評議員より約2名とする。

第5条 理事は会則第12条により評議員の中から選出される。

第6条 個人会員理事は評議員の選挙により選出される。候補者は所定の様式で抱負を述べた資料を評議員会に提出する。

第7条 法人会員理事は理事の選挙により選出される。

第4章 評議員の選出方法

第8条 評議員は会則第13条により会員の中から選出される。

第9条 評議員の選出は理事会で行う。

第10条 個人評議員は、一定の条件(細則に定める)を満たす者とする。

第11条 個人評議員の候補者は所定の様式による資料を本会事務局に届け出ること。

第12条 法人会員評議員は理事会で選出する。

第5章 監事の選出方法

第13条 監事は会則第14条により評議員の中から選出される。

第14条 監事の選出は理事会で行う。

付則

1. 理事選挙の施行は次期評議員が選出された(平成15年度)以降とする。
2. 本役員選任規程は平成14年6月8日よりこれを実施する。本役員選任規程は平成15年6月29日一部改正。
3. 本規程の変更は理事会および評議員会において、各々出席構成員の2/3以上の承認を得なければならない。
4. 役員任期は、65歳になる年の12月末で終了する。

日本がん転移学会役員選任規程細則

1. 個人会員理事の選出方法

- 1) 投票は原則として郵送とする。
- 2) 評議員は基礎系候補・臨床系候補に各1票投票する。

2. 個人評議員の選出条件

- 1) 原則として3年以上本会会員であり、会費を完納していること。
- 2) 本会や関連学会、学術雑誌などですぐれた評価を受けていること。

3. 評議員の資格

- 1) 3年連続して評議員会を欠席した者はその資格を喪失する。

日本がん転移学会 顧問・名誉会員

顧問：	菅野 晴夫	杉村 隆	(故)明渡 均		
名誉会員：	愛甲 孝	小林 博	(故)佐藤 春郎		末舛 恵一
	田中 健蔵	田原 榮一	塚越 茂	(故)	鶴尾 隆
	新津 洋司郎	螺良 英郎	(故)中村 久也	(故)	磨伊 正義
	門田 守人	渡辺 寛	Isaiah J. Fidler		
功労会員：	東 市郎	阿部 薫	(故)尾形 悦郎		垣添 忠生
	北島 政樹	(故)久保田 哲朗	桑野 信彦		佐治 重豊
	清水 暁	高橋 俊雄	竜田 正晴		寺田 雅昭
	豊島久真男	(故)馬場 正三	宝来 威		細川 真澄男
	宮城 妙子	武藤 徹一郎			

日本がん転移学会役員

会長：	谷口 俊一郎 (22回)				
副会長：	太田 哲生				
前会長：	安井 弥				
理事：	小野 真弓	北台 靖彦	藤田 直也	松浦 成昭	
	森 正樹	渡邊 昌彦	旭硝子(株)	協和発酵キリン(株)	
監事：	今野 弘之				
評議員：	足立 靖	石井 秀始	板野 直樹	伊藤 和幸	
	伊藤 壽記	伊東 文生	井上 正宏	入村 達郎	
	植田 政嗣	上原 久典	海野 倫明	大上 直秀	
	岡田 太	岡田 保典	奥野 清隆	片岡 寛章	
	加藤 淳二	川田 学	神奈木 玲児	北川 透	
	北川 雄光	国安 弘基	久保田 俊一郎	隈元 謙介	
	小泉 桂一	越川 直彦	小林 浩	済木 育夫	
	堺 隆一	佐藤 博	澤田 鉄二	清水 英治	
	清木 元治	高橋 豊	滝野 隆久	竹田 和由	
	竹之下 誠一	田中 稔之	田中 紀子	茶山 一彰	
	土岐 祐一郎	中津川 重一	中森 正二	夏越 祥次	
	西岡 安彦	西村 行生	馬場 秀夫	浜田 淳一	
	早川 芳弘	東 伸昭	樋田 京子	二口 充	
	三森 功士	宮崎 香	向田 直史	八代 正和	
	安本 和生	柳川 天志	矢野 聖二	山本 博幸	
	矢守 隆夫	横崎 宏	横田 淳	横山 省三	
	吉川 秀樹	吉治 仁志			

エーザイ (株)

サノフィ・アベンティス(株)

第一三共(株)

大鵬薬品工業(株)

日本化薬(株)

(アイウエオ順)

事務局幹事： 伊藤 和幸

(法人評議員については登録会員の中から各社より各1名選任される)
 評議員任期：平成24年7月14日～平成27年/第24回総会まで
 (第22-24回)

日本がん転移学会連絡用紙

日本がん転移学会会員の種々の変更・退会等の連絡は必ずこの用紙をご利用下さい。
会員番号（宛名ラベルに印刷してある貴氏名の右下の数字）、並びにご氏名（フリガナ）を明記の上、
変更したい事項をご記入いただき、封書またはFax、E-mailにてご連絡下さい。

年 月 日

住所等変更・退会 届 (上記、どちらかを○で囲んで下さい)

(フリガナ)		会員番号	
氏 名		生年月日	年 月 日
勤 務 先	勤務先名称（部所属も記入して下さい）		
	〒		
	Tel		Fax
	E-mail		
自 宅	〒		
	Tel		Fax
	E-mail		
雑誌等送付先を○で囲んで下さい。 勤務先 ・ 自宅			
変更年月日	201	年 月 日	付で変更します。
退 会 届	201	年 月 日	付でもって退会します。
その他			

※個人情報について

会員への連絡、会誌等の発送等、学会活動の目的に限定して利用します。

=====

[発行・編集]

日本がん転移学会事務局

Tel/Fax 06-6971-7951 (直通)

E-mail: office-jamr@umin.ac.jp

〒537-8511

大阪市東成区中道1-3-3

大阪府立成人病センター内

=====

2013.4